

事業のタネシート

活動地域・団体名：荒山林業

事業名称1：地域材循環の流通拠点をつくる

あらすじ

北アルプス地域は面積の84%が森林と森林資源が豊富である。中でも森林面積の訳7割を落葉広葉樹主体の天然生林が占めるが、地域内に製材や乾燥技術、流通拠点が無い為付加価値の低い原木の状態域外に買われていき、資源としては豊富にあるものの産業としては産業付加価値額が大町市で農業の1/5程度と低い水準にある。また、労働生産性が長野県平均と比べても低く、全国平均からは約40%も低い水準となっている。このことから山林を持っているメリットを感じられない所有者が域外の業者の開発行為に乗じて土地を売ってしまったり、持っていて何にもならないというムードを作り出しており、若者が学卒のタイミングで転出超過に転じる要因にもなっている。

ストーリー

こうしたムードを変え、木材を付加価値の高い状態で地域内循環させていくことで地域内での利益循環構造をつくり、ひいては水どころであるこの地域の水循環も守りたい。その為には木材を原木から加工できる状態にする製材・乾燥設備と流通拠点が必要である為、その整備をしたい。流通拠点を整備することで雇用を生み出し、地域内でワンストップで加工度を上げる仕組みやデジタルファブリケーションを用いたものづくりによってゼロからイチを生み出すことのハードルを下げ、若者が地域内に環境因子以外の社会的因子としてベネフィットを感じるきっかけにしたい。

事業の骨子

現時点で想定される 課題・ボトルネック

①ありたい未来

森林が適切な状態で循環することで足を踏み入れて心地よい山をつくり、水資源を守る。地域内循環のボリュームを増やすことで森林を管理する担い手や、地域木材を使う使い手が今よりも経済的に暮らしが成り立っている状態をつくり、ウッドマイレージ削減にも寄与する。

- それぞれの経済規模感により異なる立ち位置
- それによって組織を超えたコンソーシアムをつくることへの主体者意識の違い

②課題

現状では木材を乾燥まで行える設備がない為、よくても製材品までを地域外のメーカーと取引するに留まっている。去年の時点での原木の状態域外に出ている状態からは大きな進歩だが、より地域内における資源循環、経済循環を起こすには乾燥設備、流通拠点までを整備する必要がある。

- 事業主体や拠点整備の為に資金調達

③なぜこの事業をやるのか (Why)

かつて薪炭林として利用していた山がエネルギー革命後利用されなくなり70年生ほどの一斉林になっている。こうした山はナラやクリなどが多く、大きくなるにつれ光のシェアが上手くいかず立ち枯れが発生している。これにより林床に光が当たらず森林の更新がうまく進まない現況や、立ち枯れによる災害リスクの増加も懸念される。天然生林といえども森林の更新を促すために人の手を入れ適宜切っていくことが必要だが、木材が付加価値の低い原木の状態域外に流出することで利益還元が少なく、山を持っていたとしてもいいことがないと所有者の諦観が根強い。地域内循環を起こすことで産業付加価値額を上げ、所有者に山林を所有していることへの誇りを再度持って貰いたい。それがひいては水資源を守り、望まない開発を防ぎ、地域のムードを盛り上げることに繋がると考える。

④地域資源	<ul style="list-style-type: none"> ・北アルプス地域の面積の約84%を占める森林資源 ・中でも豊富な広葉樹資源 (広葉樹主体の天然生林が全国平均では50%程度であるのに対し、北アルプス地域は約7割が天然生林) ・地域内数カ所にある製材所 ・林業の担い手 ・地域材流通について当事者意識を持った地元木工家 ・広葉樹活用をテーマに掲げる北アルプス地域振興局 	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	<ul style="list-style-type: none"> ・木工・家具用材として使える含水率8%前後の地場産広葉樹材 ・地域内にない人工木材乾燥設備と乾燥技術 ・トレーサビリティが切り株まで辿れる地域木材を使った地元木工家による木工作品 ・その他デジタルファブリケーションによるワンオフから作れる地域木材製品 ・他地域の地域材や広葉樹活用をしているプラットフォームとの連携によるネットワークやナレッジ共有 	
⑥担い手 (Who)	地元木工家、林業者、森林組合、行政でコンソーシアム化した組織をつくり、担い手になる	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	地域木材資源の利用による森林・経済・水循環 乾燥工程によって生じる熱の複合利用 木材加工時に出るおが粉→地元有機農家の肥料に	北アルプス森林組合 大町市役所 ゆーぷる木崎湖 地元木工家
⑧事業で生じる成果	<p>環境：適切な管理による森林循環、水資源循環、景観保全、生物多様性保全、ウッドマイレージ削減</p> <p>経済：地域内での高付加価値型の木材循環により山林所有者、林業者、製材加工業者、木工家の森林木材起因の所得水準向上</p> <p>社会：諦観ではなく森林に対して誇りを持っている状態、ムード若者が地域に残留、またはまた戻ってこようと思うマインド形成</p>	北アルプス地域振興局 VUILD 飛騨コンソーシアム

事業名称2 : on the lake		
あらすじ		
<p>大町市には仁科三湖という三つ連なった湖がある。台湾の日月潭やスイスのラヴォー地区など、湖畔エリアは世界的にみても貴重な観光資源として経済循環のハブになっている。世界的にも名の通ったスノーリゾートである白馬の南に位置する動線を生かし、湖畔のエリアの魅力を外に向け発信し、関係人口を増やす為の滞在型のカリキュラム体験を事業にする。</p>		
ストーリー		
<p>豊かな自然資源がある仁科三湖エリアだが、昔栄えた面影を残すものの経済的には上記のような観光地ようにはなっていない。現状大町市ではまちなかのにぎわい創出に取り組んでいるが、外から見たときにも魅力的なこの仁科三湖エリアを外向けに発信し、湖畔のプレーヤー同士もよりつながるon the lakeというプラットフォームとして事業を実施。具体的には地域内プレーヤー向けに外から必要なテーマをレクチャーできる人を呼んでディスカッションするlab on the lakeと、地域外から参加者を募り滞在型のカリキュラム体験をするlife on the lakeの2軸で実施する。</p>		
事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	湖と湖畔の暮らしに住む人々が誇りを持っている状態 湖畔のにぎわいにより関係人口が増加し、生き生きとはたらき暮らす人々によって豊かな景色がより彩られている	<ul style="list-style-type: none"> ・採算としてはそれほど大きなスケールにはならないことが予想されるので継続的な資金調達が課

②課題		<p>題。初年度となる来年度はプロトタイピングとして最初の実績をつくり、関係人口増加に一定の効果が得られるようであれば大町市と共同開催なども打診したい。</p>
③なぜこの事業をやるのか (Why)	事業をやることで関係人口の増加を図り、湖畔エリアの自然資源が好きな人が集まり、つながる仕組みを創りたい。	
④地域資源	木崎湖、中綱湖、青木湖（仁科三湖）、湖畔のキャンプ場、キャンプ場が提供するサウナやSUP、カヌーなどの体験、足を踏み入れて心地よい森林、湖畔のプレイヤー、四季折々の景色	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	仁科三湖エリアの森と湖に親しみながらお金を稼ぐ以外の手で暮らしをつくる手ごたえを体験して貰う滞在型のカリキュラム ゆくゆくはそこから派生したプロダクトなどで有機稲作農家など、湖畔のプレイヤーの所得向上にもつなげたい	
⑥担い手 (Who)	<ul style="list-style-type: none"> ・ on the lake事務局 ・ やまとわ（企画協力） 	
⑦事業で生じる循環	<ul style="list-style-type: none"> ・ つながりが生まれることによる耕作放棄地の減少、景観整備が進む（草刈り、新規就農、フットパス整備） 	<p>課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ やまとわ奥田さん ・ 大町市企画財政課 定住促進係 ・ lab on the lakeのテーマとなる話題をレクチャーできる講師 ・ 事業のタネ①との連携
⑧事業で生じる成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 湖畔の暮らしを魅力的に感じえる関係人口の増加 ・ 市役所との協力体制 	

事業名称3：		
あらすじ		
ストーリー		
事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来		
②課題		
③なぜこの事業をやるのか (Why)		
④地域資源		
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)		
⑥担い手 (Who)		課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環		
⑧事業で生じる成果		